

ソフトカプセルの特徴

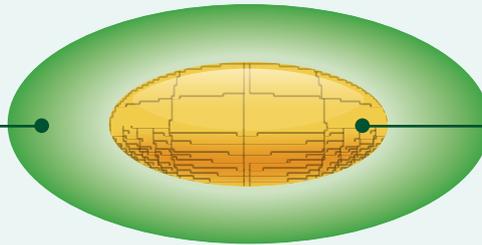
ソフトカプセルの構造

ソフトカプセルは内容液を皮膜に包んでカプセルとして成型されます。
内容成分に対する堅牢な気密性が大きな特徴です。

■ 一般的なソフトカプセルの処方成分

皮膜

- ▶ 基剤 (ゼラチンetc.)
- ▶ 可塑剤 (グリセリンetc.)
- ▶ 着色剤 (酸化チタンetc.)



内容液

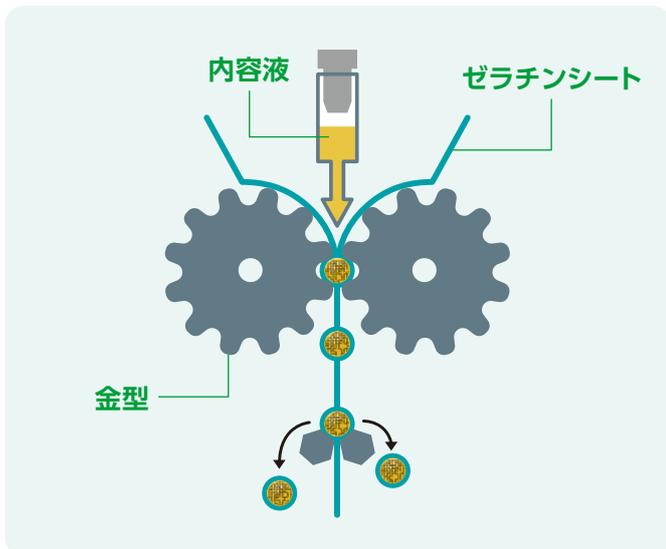
- ▶ 有効成分
- ▶ 溶剤 (油性 or 水性基剤etc.)

■ ソフトカプセルの種類

ソフトカプセルは医薬品の用途・成分の特徴により、2種類の製造法から選択できます。

ロータリー

内容液をゼラチンシートで包み、金型を使用して圧着・成型加工



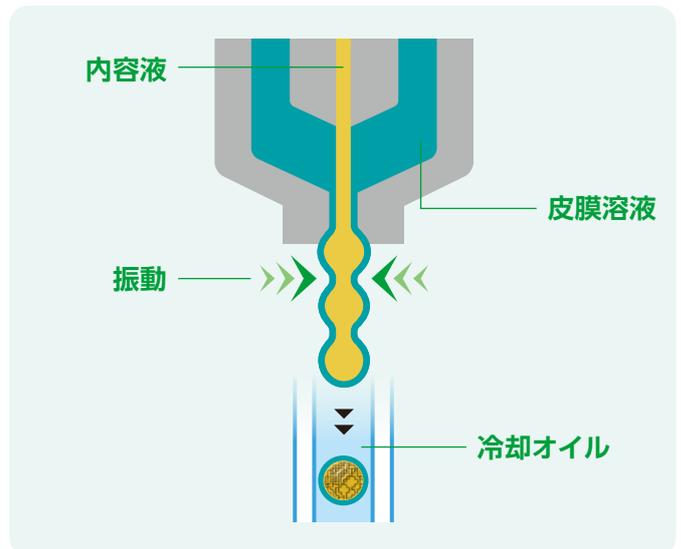
▶ 特徴

金型の設計により、様々な形状でカプセル化ができる



シームレス

同心二重ノズルの内側から薬液等を、外側からはゲル化剤などを含む皮膜溶液を、それぞれ滴下し、界面張力を用いて二重構造の球体を成形しています。



▶ 特徴

微小なカプセルからφ10mm程度の大きさまで、幅広い範囲でのカプセル化が可能

